

医療体制

泉大津市民の命を守る医療体制の拡充を進めます。官民で力を合わせて安心して暮らせるまちの土台を作ります。

市議会議員を務めた10年間に
見てきた市立病院の課題

平成19年に泉大津市議会議員になった当時から市の財政問題の根幹には、市立病院の経営問題がありました。救急受け入れ率が低く、医師の確保も安定せずに時には医師の一時退職も目の当たりにしてきました。そうした経営の悪化に対して、平成20年度から令和元年度までの間に約120億円もの税金を繰り入れたにも関わらず、累計37億円の赤字となり、結果として市の財政を圧迫しています。税金を投入することで一時的にしのいでも根本的な問題を解決できないまま、現任に至ります。近隣市ではより高度な医療を提供できるようにと、公立・民間の病院が大改革を進めてきました。その結果、泉大津市立病院は取り残され、今回のコロナ禍によってより経営が深刻になりました。

いつまでも より良い医療が受けられるように。



市長としての覚悟

これ以上、問題の先送りはできない。責任をもつて未来に繋げる道筋をつくるために、市長就任からの4年間、よりよい医療を提供することと持続可能な経営体制をつくること、この両方を実現することを必須として、職員と必死に頑張ってきました。大学医局、国や大阪府、近隣医療機関等と幾度となく話し合いを繰り返し、最善のプランを導き出してきました。もちろん、その間も病院経営改善を行っていますが、将来のための抜本的改革をいま実行しなければ後はないとの考えに至っています。

今の私にできる最善のプラン

私にできることは、泉大津の未来に責任をもって繋ぐための実現可能なプランをつくり、実行をすることです。時代が変わっていく中で持続可能な地域医療を実現するためには、公立と民間が、地域で必要とされる医療を実現するという同じ目標に向かって、それぞれの強みを生かして役割分担し協力することが欠かせません。それを具体的に描いた構想が「地域医療連携体制強化構想」(案)で、内容については2月から広報誌に連載しています。また動画配信による説明も行い、タウンミーティングでも説明に加えてすべての質問に丁寧に答えてきました。様々な意見を聴きながら、よりよい構想実現に向けて動いています。現在、市議会では特別委員会が設置され協議が始まりました。

次の4年で果たす約束

よりよい医療を市民の皆様実感してもらえよう、描いた構想プランを実現します。社会環境がこの後も激変する中、大災害時、感染症対策、いざという時に市民を受け入れ、真に命を守ることができる医療体制を官民で力を合わせて整備し、安心して暮らせるまちの土台を作ります。市民の税金を際限なく注ぎ込まないと成り立たない現在の病院経営から脱却し、市の財政問題に道筋をつけます。

詳しい情報はHPをチェックしてください。

Q 市立病院はなくなるのですか？

A なりません。

Q 市内に総合病院はなくなるのですか？

A 新設する高度急性期病院も総合病院です。

Q 今の市立病院はどうなるのですか？

A 周産期・小児医療を担う予定です。その他の診療科は、新たに建設する病院と府中病院に分けて設置します。これまで市立病院でできなかった高度な医療が新病院で受けられるようになり、高齢者の入院や回復期のケアは府中病院で担うことになります。

Q 今のままにしておくよりも良いことがあるのですか？

A 市民の命を守るための救急医療が飛躍的に良くなります。また現在、市立病院には年間9億円の繰り入れを行い、資金不足になるたびに追加で資金を送っています。新病院ができると運営は民間が担うので、市からの繰り出し金を大幅に圧縮し固定化することが可能になります。

Q 通う距離が遠くなるので不便です…

A 巡回バス等を充実させる等して、不安なく通えるようにします。



みんなの力で 泉大津を前に！



泉大津市長 南出けんいち

1979年 泉大津市生まれ。40歳。二児の父。上條小学校、小津中学校、浪速高校、関西学院大学商学部卒。
(株)ニチロ、(有)南出製粉所を経て、2007年・2011年の泉大津市議会議員選挙においてトップ当選。
2015年は無投票により再選し市議3期を務める。2016年12月泉大津市長選で当選。

<活動通信>
令和2年11月発行

南出けんいち
LINE公式アカウントもフォロー ▶▶▶

南出けんいち後援会事務局 泉大津市助松町2-6-21 ☎080-2831-4616 ✉minamideteam@gmail.com

すべては、泉大津市の未来のために。

子どもから高齢者まで、何歳であつても、何歳になつても、元気に楽しく暮らしたい」「子どもたちの能力を伸ばし、可能性を開花させる教育を受けさせたい」「安心・安全で便利なまちで暮らしたい」「自然とのふれ合いを感じながら暮らしたい」そうした一つの時代も変わらない市民の皆さんの願いにこたえるべく、市長1期目の4年間、全身全霊で邁進してまいりました。

その結果、財政健全化の指標を大きく改善して基金残高も大きく増やすことができ、様々な政策や取り組みを実現することができました。しかし、残された課題もまだまだ多く、さらには平成30年9月の台風21号や今般の新型コロナウイルス感染症のように、私たちが経験をしたことがないような危機も次々と生じ、今後の課題が尽きることはありません。したがって、現在のみならず未来への影響や効果を考えて政策を実行することが重要になります。その中で大切にしていることは、まず必要な決断を先送りしないこと。そして、各種の決断にあたってはピン

チをチャンスに転換するための知恵を集め直すこと。そうした姿勢を崩すことなく、泉大津の未来を常に考えて市長としての職務に当たっています。

未来に向けた取り組み

現在進行形の大きな事業としては、令和3年度のオープンを目指した泉大津駅前新図書館、市民会館跡地を活用した公園設計、そして地域医療については、市議会が特別委員会が設置され協議が始まりました。これらの取り組みを着実に実現させることも、まだまだ残っている課題、これから生じるであろう課題についても対策を講じ、課題をプラスに転じながら、市民の皆さまの想いにこたえるため、泉大津を未来につなぐために、全精力を注ぎます。



4年間の実績

市長1期目(2017年～現在)としての4年間、さまざまな政策を実行してきました。実績をまとめた活動通信を2020年10月に発行し、全戸配布しております。合わせてご覧ください。また、右記のQRコードからご覧いただけます。



泉大津を前に！ 進めるための施策



教育・子育て

子どもたちがより良い教育に触れられる環境を前進させます。伝統文化、食育、スポーツ、先端教育等、様々な体験を充実させ、一人一人の可能性と人間力を育む教育に取り組みます。また、多様なコミュニティや支え合いの場をつくり、安心して子育てができる泉大津市を目指します。

- 民間のノウハウを生かした新たな認定こども園の整備や民間園の誘致を行うなど、待機児童の解消に取り組みます。
- 就学前施設、小中学校において、オーガニック(有機栽培)給食を推進し、子どもたちの元気で丈夫な身体づくりを応援します。
- 令和2年中に全児童生徒に学習用タブレットを配備し、オンラインによる学習環境の整備を推進します。
- 小学校において泉大津市独自の35人学級を段階的に進めます。
- 令和3年度から、仲よし学級学級において延長保育を実施します。
- 子ども医療費助成制度の拡充(高校3年生まで)と、病児保育サービスを実現します。



健康づくり・地域共生

心身健康で長生きできるまちづくりを実現するため、薬や手術だけでなく、食、運動、笑い、先進/ノウハウ等、多様な選択肢で課題が解決できるまちを目指します。生活不安をやわらげ、安心して暮らせるための支え合いの仕組みや環境づくりを推進します。

- 高度かつ緊急な医療に対応できる市立病院を新設し、現在の市立病院だけでは対応できなかった医療ケアを実現します。
- 新設の市立病院による高度急性期医療と並んで、小児周産期医療、回復期や終末期を安心して過ごすことができる医療介護拠点の整備を進めます。
- 未病、予防医療の推進により健康寿命の延伸に取り組めます。(自分の健康状態を把握できる「泉大津版健康診断」など)
- 新型コロナウイルス等の感染症対策として、関係機関と連携して検査体制を充実させ拡大防止に取り組むと同時に、感染予防に役立つ技術やノウハウを増やし新たな感染対策にも取り組みます。
- 児童発達支援センターや重度障害者のグループホームを誘致、開設します。
- あしゅびプロジェクトを進化させ、生涯において一日でも長く快適に歩ける身体づくりをサポートします。



まちづくり

まちの中で、自由に表現できる場、楽しめる場、知的好奇心が刺激される場、おもしろい人に出会える場、心安らぐ場、語らえる場、解放される場がある。ふとそういう時間に身を置けるまちづくりを目指します。大切にしたいテーマは「市民とつくり、みんなで使いこなす」。

- 公園整備を推進するとともに、歩行者やコミュニティを優先した道路や空間づくりを進め、マルシェや農業、音楽等、場の有効活用に向けた取り組みを進めます。
- 忠岡町と連携し、大津川/河川敷の有効活用による市民の憩いの場づくりを進めます。(例：パークゴルフ場の移転整備、自然科学を活かした水質改善で多様な生物と人が集まる川へ)
- 大阪府や民間事業者と連携したベイエリアの有効活用として、小松緑道の計画的再整備をはじめ、スケートボードパーク、バーベキューエリア、海釣り公園の整備に向けた取り組みを進めます。
- 世界的な人口増、日本国内の食品のあり方などの食糧問題は命と健康の根幹です。農山村を持つ地域と連携して、農業連携による安全安心の食の確保と食育を推進します。
- コンパクトなまちを活かした生涯学習拠点の再編整備を進めます。
- 50年後、まち全体が「泉大津の森」となるよう緑と花を増やす活動を推進します。



地域経済

コロナ禍で実施した緊急経済対策「レシート大作戦」では、泉大津市内で約11億円を超える経済効果が生まれました。今後も、市内でお金が循環するような取り組みを実施します。地元商店や企業が持つ価値を再発掘し、市民に愛され応援される商業や産業づくりを目指します。

- レシート大作戦を進化させ、市内経済の活性化と共に、市民の暮らしが潤うための施策を実施します。
- 泉大津駅前新図書館を活かして、創業支援や新事業の創発など新たな価値を生み出し「稼げる自治体」を目指します。
- コロナとの共存社会に向けて、役立つ製品やサービスが数多く生まれるよう、地域産業を応援します。
- 小さな商いの推奨や働く場所の確保により、高齢者や障がい者、女性の雇用を増やします。
- 公園や公共空間においてチャレンジ出店できる場の創出等、魅力ある個店が増えるための施策を実施します。
- ビジネスの力で社会課題を解決する取り組みを応援し、起業家育成や企業誘致にも取り組みます。



防災・安全安心

市からの情報が行き届くように環境を整えと共に、子どもや女性、高齢者、障がい者をはじめ、災害弱者を守る取り組みを強化します。災害時等の対策には多様な視点を盛り込み、誰にとっても安心して安全に暮らせるまちづくりに、市民の皆様と力を合わせて取り組みます。

- 大災害に備え、民間企業と連携した避難所確保や協力体制を強化し、多様な市民参加型訓練に取り組めます。
- 全国青年市長会や市町村広域災害ネットワークのつながりを強化し、災害時の応援体制を強固にします。
- 70歳以上の市民がいる世帯には、インターネットを使わなくても情報が届くようにラジオを配布します。(今年度完了予定)
- 行政情報を家庭のテレビに届けるための仕組みづくりを進めます。(現在実証実験中)
- ハザードマップ(災害発生時に危険になる場所や避難場所をまとめた地図)を改訂し、全戸に配布します。
- 災害時に危険が予想される場所に対して調査を実施し、国や大阪府と連携して整備を進めます。(湾岸エリアや大津川/河川など)



行財政改革

市長1期目からの改革路線を継続し、厳しい財政の根本的問題を解決します。また、変わりゆく時代に対応できる機動力ある市役所へと進化をさせ、日本一民間との連携事業が生まれる泉大津を目指し、市民の利便性やまちの魅力を高めます。

- 2025年大阪・関西万博に向けてまちのビジョンや取り組みを積極的に発信し、企業や他自治体との協働を積極的に図ります。
- SDGsが示す「誰一人取り残さない」という理念に向かって、女性管理職比率の向上をはじめ、多様な視点と機動力を持った新しい市役所を目指します。
- 健康や暮らしの課題を解決するための先進技術やノウハウが集まり、市民が参加できる「泉大津リビングラボ」を実現します。
- 引き続き市長給与カットを実施します。(4年間で1500万円)
- 地域課題の解決やまちの活性化に資する企業との協働や社会実験を数多く生み出しながら、市民サービスの向上を図ります。
- インターネット等を使った市民サービスの利便性向上を図ると共に、インターネットが苦手な方へのサポート施策も実施します。



これからの四年は健全財政へと好転させるための大きな山場になりますが、乗り越えるための道筋を作ってきました。

コロナ禍により社会全体が厳しい状況になっていますが、健全財政への歩みを止めないためには、市民の皆様が必要です。

「みんなの力で泉大津を前に！」

ここに掲げた政策をはじめ様々な取り組みを実行しながら、市民の暮らしの満足度を向上させ、暮らしの中に笑顔が一つでも多く生まれるまちづくりを皆さんと一緒に手がけていきます。

これから毎年大きな転機を迎えます。

市民の想いと行動の数はまちの大きな原動力です。

泉大津の未来をともに創っていきましょう！



2022

03 泉大津駅前新図書館が開館



2023

04 市民会館跡地にみんなで作る未来の公園が完成



2024

05 新しい市立病院が開院

2025

06 関西(大阪)万博

※写真はイメージです。